

全日本語りネットワーク

2009. 12. 25 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 5-11 JR 駅構内
桐生市市民活動推進センター内
(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130 - 2 - 114808
(E-mail) welcome@japankatarinet.jp
(HP) http://japankatarinet.jp/

ニュース

語りと紙芝居

荒木文子（茨城県古河市）

語りネットワークのメンバーに入れていただきこれ5年になります。紙芝居の演じ手としてたくさんの方をいただき紙芝居を演じています。またたくさんの方の語り手のみなさんの語りを聞きとても勉強になっています。

でもある時ふと不思議に思ったことがあります。巻頭言にはふさわしくないと思いますが、そのことを不思議のまま、答えがでないまま書かせていただきます。

その不思議とは……。

語りと紙芝居とのことだけで言わせていただきますが、何も使わずに語る語りと絵を使う紙芝居は同じストーリーテリングの枠の中にあるけれどもまるで別物なのではないかということです。では具体的には何が違い、どうして語り手のみなさんは語りを選び、どうして私は紙芝居をやっているのだろうか？ つまらない考えがむくむくとわきあがりとまらないのです。

そこで考えてみました。私は紙芝居のどこが好きなのでしょう。紙芝居は小さい舞台の中の小さい劇場であり、幕が開くと芝居が始まり、わたしはおばあさんにも少年にも鬼にもナレーターにもなり、たくさん的人物を演じ分けなければなりません。絵があるので紙芝居は存外演じやすいと思われがちですが、絵から感じ取って絵に添って演じなければならず、意外と難しいのです。それも楽しい作業のひとつではありますが……。そして、どこか客観的にみている自分をちょっぴり残し、紙芝居を演じている数分の間私は私でなくなり、たぶん観客も同じく自分を忘れて同じ世界にいるはずで、その一体感でとても幸せになります。

これは語りも同じなのでしょうか？

紙芝居は動かない絵を動いているように見せ、演じるのが醍醐味ならば、語りも話の世界が聞き手の頭の中に画面がひろがるように語ることが腕のみせどころなのだと思われ、勝手に納得し、いづれにしても想像する楽しさを伝えることには変わらない、とまとめようと思いましたが、やっぱり語りと紙芝居は別物なのだ……。あっ またもどってしまいました。

みなさんはどうして語りを選んだのですか？



紙芝居を演じている筆者